

## 第2回瀬戸市基本構想審議会 協議事項要旨 (R7.12.15 開催)

### 〈議題〉

第1回での意見交換を踏まえて、「2040年の瀬戸市での理想の暮らしを描く」をテーマに、2つの論点で意見交換を行う。



	所属等	氏名	分野等
1	南山大学総合政策学部 教授	石川 良文	都市環境政策、地域経済、政策評価
2	株式会社官民連携事業研究所 代表取締役社長	鷲見 英利	官民連携
3	ラジオサンキュー(RADIO SANQ) パーソナリティ	林 ともみ	福祉(障害者福祉)、マスコミ
4	大橋運輸株式会社	橋本 美香	ダイバーシティ、LGBTQ
5	多文化ソーシャルワーカー	神田 すみれ	多文化共生、外国人の社会参画
6	朝日インテック株式会社	梅村 佳範	地域経済、地域産業
7	名古屋大学情報学部 准教授	浦田 真由	地域DX、DX推進、オープンデータ推進
8	株式会社PoliPoli 代表取締役/CEO	伊藤 和真	GovTech(政治・行政×テクノロジー)
9	東海旅客鉄道株式会社事業推進本部 係長	吉澤 克哉	関係人口創出
10	瀬戸くらし研究所 所長 株式会社きんつぎ 代表取締役	野々垣 賢人	地域デザイン
11	土街人プロジェクト 双寿園 代表取締役社長	石川 圭一	ローカルコミュニティ、地域課題・魅力の見える化
12	愛知産業大学通信教育部造形学部 准教授	堀部 篤樹	建築計画、住民参加型まちづくり
13	名古屋学院大学現代社会学部 准教授	水谷 香織	社会的合意形成、参加協働、社会基盤計画

## 【論点1】第1回審議会でのキーセンテンスの深掘り

### (1)瀬戸らしいダイバーシティを実現する

#### 《話題提供》

##### 神田委員

- ・瀬戸市の外国人人口比率は3.95%で全国平均3.2%を上回る。国籍構成では、朝鮮・韓国や中国が減少傾向にある一方、ベトナム・インドネシア等が増加し多様化が進んでいる。
- ・これに対応するため、教育分野では小・中学校の支援員配置適正化や初期指導教室の充実、労働分野では留学生の雇用・定着支援や技能実習生を地域の担い手として位置づけること、高齢者福祉分野では将来の介護・看取り問題への備えが必要とされている。
- ・多文化共生の実現には、外国人住民のみに適応を求めるのではなく、地域全体で多様性と人権を尊重し、偏見や差別を生まない環境づくりと対話の場の設定が重要である。

##### 橋本委員

- ・深刻な人手不足に対応するため、採用力強化の軸としてダイバーシティ経営に取り組んでいる。
- ・多様な人材の活躍は発信力のある企業価値となり、このような企業が瀬戸市で増加することで地域全体の活性化が期待される。

##### 石川委員

- ・やきもの産業では主婦が隙間時間に絵付けを行うなど、従来からダイバーシティに近い働き方を実践してきたが、家族経営の経営難により業態縮小が進んでいる現状がある。他産地では、外国人人材登用や体験ニーズの高まりが見られるところもある。
- ・『土街人』の取組では、国際芸術祭あいちを通じて瀬戸の魅力を对外発信し、瀬戸に関心を持つ人との繋がりができた。今後意見交換を行い、瀬戸市への継続的な関わりを促していきたい。

#### 《意見交換》

##### 石川委員

- ・自治会活動について、外国人住民や障害児の保護者の参加が進まない現状がある。こうした住民同士のコミュニケーション課題の解決に向けて、何か手立てはあるか。

##### 神田委員

- ・自治会に外国人と日本人の役員を両立てし、ペアで活動するという事例がある。外国人役員が外国人コミュニティに自治会の仕組みを説明できる効果も生まれている。
- ・まずは、ボランティアの必要性の説明や核となる外国人住民との関係性の構築が考えられる。障害児のいる家庭は複数の困難が想定されるため、地域で支え合うことの重要性を考える機会でもある。

##### 梅村委員

- ・ダイバーシティのゴールについて、どのような形が理想なのか、具体的なイメージがあればお聞きしたい。

##### 神田委員

- ・一人ひとりの人権・個性が尊重され、それぞれの知見・経験が最大限発揮でき、関わり合えるようになることをイメージ。

#### 林委員

- ・どんな環境や背景にあっても、各々がやりたいことを諦めずにやれる社会であってほしい。
- ・障害児の例では、保護者がキャリアを継続できる環境や、障害者が働ける仕組みを整える必要がある。

#### 鷲見委員

- ・ダイバーシティの実現には、優秀な外国人に日本を選んでもらうことも重要。日本が選ばれることが前提で、その上で各自治体がまちの魅力を効果的にアピールする必要がある。
- ・「外国人に選ばれるまち」について、外国人人材の活躍促進に関する取組の中で、「地域住民による受容」の視点を考慮し、外国人向けの「日本に住むとは何か」という研修と、地域住民・企業向けの外国人理解の講義を行った他市の事例がある。

#### 野々垣委員

- ・外国人とのコミュニケーションについて、わかりやすく、よりフランクなコミュニケーションが可能な環境を作ることで良いまちになるのではないかな。

#### 石川会長

- ・過去に外国に居住していた際、言語の壁で近隣住民とのコミュニケーションが取れずにいたが、相手から歩み寄ってくれたことで、関係性を構築することができた。瀬戸市でも様々な人を受け入れる際、具体的な一歩を示すことで相互理解が深まり、まちの発展に繋がるのではないかな。

#### 水谷委員

- ・外国人アドバイザーと一緒に、外国人とのコミュニケーションの取り方を啓発する自治会向け動画を作成した名古屋市港区の事例を紹介する。(URL [https://youtu.be/gq9Jf8JHbdg?si=rqPb01F\\_xIVbg33H](https://youtu.be/gq9Jf8JHbdg?si=rqPb01F_xIVbg33H))

## (2)市民の瀬戸市に対する誇りを育む

### 《話題提供》

#### 伊藤委員

- ・東京や名古屋ではなく「なぜ瀬戸市を選ぶか」という問いは重要になる。個人的には、3つの視点に関わると考える(①存在感のある起業家・実業家を輩出した市としてのプライドを感じさせる要素、②歴史的にやきもの産業を発達させてきた市としての誇らしい要素、③自然豊かなまちとしての価値)。
- ・こうした価値を踏まえた上で、限られたリソースの中で様々な取組を行わなければならないことから、総合計画ではまず危機感を記載することを提案したい。
- ・また「〇〇市と言えばこれ」というブランディングの重要性は大きく、稼ぐ視点を持ってまち全体に良いモメンタム・明るさを醸成することが望ましい。
- ・理想を掲げた上で、様々な人が関わり合い、まちづくりに関する地道な活動が展開されることも重要。

#### 野々垣委員

- ・シビックプライドは単なる地元愛ではなく、「自分たちでまちを変えていける」という当事者意識・自負心を含む概念。瀬戸市は外から見てもシビックプライドが醸成される背景・文脈があると感じる。
- ・シビックプライドは、行政が打ち出していきなり醸成されるものではない。市民一人ひとりの声によりまちが変わっていき、自分の声が反映されるという感覚が実感できると、醸成されていくのでは。
- ・最近の若者の消費行動では「報われポイント」が鍵となるという話があるが、これは行政分野にも当てはまり、目に見える価値の裏にある潜在的価値が認められることも今後重要になるのではないかな。

## 《意見交換》

### 梅村委員

- ・シビックプライドをくすぐるものは、住んでからは重要であるが、住む前の人、市外の人に対していかに訴求するのか、真剣に考える必要がある。「いかに稼ぐか」という視点も大切だと考えている。

### 橋本委員

- ・瀬戸市の「土地の安さ」を評価する話をよく聞くと、瀬戸市に戻ってくる、移り住むという意思決定を支える大きな要素であると感じる。市外に対するアピールポイントの1つになるのではないかと感じる。

### 石川会長

- ・生まれ育つ過程で「瀬戸が今後衰退する」という話をよく聞いていたが、大人になって改めて振り返ると、瀬戸市は悪いイメージばかりではないと感じる。
- ・「愛着や誇りの醸成がいかに定住人口に繋がっていくか」という視点でも考えていく必要がある。

### 堀部委員

- ・ダイバーシティの実現に向けた意見交換の中で、相互理解の話があったが、分からないものに対する恐怖もあり、その点で「知る」ということの重要性は大きいと感じる。
- ・誇りの醸成に関して、実際に瀬戸のまちを歩いてみて、やきものまちとして瀬戸市が持つ価値は十分大きく、外から若者やクリエイターを引き寄せる強みがあると感じた。こうした地域の魅力を、大人だけでなく子どもたちに知ってもらうことが重要である。

### 橋本委員

- ・瀬戸市の魅力的なものが、地元の人に十分に理解されていないと感じる。市民に対して、瀬戸市の「今」を知ってもらうことが重要なのではないかと感じる。

## (3)関係人口・共創人口を増やす

### 《話題提供》

#### 鷲見委員

- ・各自治体では人口減少・労働者不足が大きな課題となっており、官民連携への関心が高まっている。関係人口・共創人口に関しては、ふるさと住民登録制度や企業版ふるさと納税が具体的な取組となる。
- ・大都市圏で活躍する人は「故郷に錦を飾る」意欲があることが非常に多く、このような人材を増やしていくことは、関係人口・定住人口を増やす原動力として重要である。
- ・最近のトレンドとして、「行政×大企業×地元企業」「行政×大企業×スタートアップ企業」といった多者連携が増えている。企業のビジネスチャンスと行政のシティプロモーションの両方に良い取組であり、こうしたプロジェクトにフォーカスすることも一つの手である。

#### 吉澤委員

- ・限られたパイの奪い合いからの脱却が必要であり、これまでの「地域を訪れる人の消費量」ではなく、「訪れた人がどれだけ地域の人と関わり、価値創造や生産活動をしていくか」を目指すべきと考えている。
- ・「コアな共創人口にツクリテになってもらうか」という点で、瀬戸市は活かしやすい地域資源がある。
- ・中津川市の事例では、地域の内外の人の交流プロジェクト終了した後も自発的に新たな取組が生まれている。こうした積み重ねが、関係人口やダイバーシティに繋がるまちの価値向上に結びつくのでは。

- ・行政の取組としては、コアになるプロジェクトを立ち上げ、プレイヤーに関わってもらおう仕組みを作ることが方向性の一つである。

## 《意見交換》

### 伊藤委員

- ・官民連携の視点を計画内に位置づけることは、昨今の社会的潮流を考慮すると必要不可欠である。民間にインセンティブを付与する官民連携のあり方や、ソフト面での連携を検討すると良いのではないか。
- ・政策への関係人口の薄さが起因した、政治への不信感の問題が国・地方ともにある。政策の意思決定プロセスを、住民と行政の信頼関係を基盤として構築するような好循環に持ち込めると良い。

### 野々垣委員

- ・市内に活発なコミュニティがあっても、市外の人との出会いは偶発的なケースが多い。市外の人が地域コミュニティに接続できる仕組みづくりを施策として考えられると、関係人口・共創人口に繋がるのでは。

### 堀部委員

- ・関係人口・共創人口を考えるにあたり、東京のみ人口が増加し続けるという前提であるか確認したい。
- ・瀬戸市はどの層を対象に関係人口・共創人口を集めると良いのか。

### 水谷委員

- ・今後 50~100 年で日本の総人口は 10 分の 1 に減少するという推計もあり、人口減少リスクへの対応という視点を踏まえた事業の検討は重要である。
- ・人口減少は必ずしも悪いことばかりではなく、「限りある資源を、余裕をもって使える」というような、良い意味で捉え直す議論もできると良い。

### 石川会長

- ・全国的な出生率が 1.3 程度の前提で、2100 年頃には人口が約 6 千万人に減少する推計もあり、出生率を向上させて人口を維持するということも考え方の一つである。
- ・大都市圏ではある程度の人口維持が見込まれるが、地方では魅力のない地域から急速に人口が減少することが想定される。定住人口や関係人口・共創人口から選ばれ、残れる地域になれるかどうか、こうした基調の中で考える必要がある。

### 吉澤委員

- ・関係人口・共創人口のなり手を集める際は、東京をはじめとする三大都市圏に働きかけることが多い。東京には地域貢献への潜在的ニーズがあり、実際に東京から来た人が関わって盛り上がっている地域もある。ただし、テーマによっては近隣地域の方が高感度な場合もある。

### 浦田委員

- ・愛知県はものづくりのイメージが強く、就職の際に選ばれにくいという現状を踏まえて検討していく必要がある。
- ・瀬戸市らしい官民連携について考える際、飛騨市のような特徴的で奇抜な取組は瀬戸市のアピールに有効ではないか。
- ・官民連携事業は事業の維持や予算確保、成果に繋がるまでの継続が難しく、上手に回る仕組みの構築が重要である。

## 【論点2】 将来のまちづくりに活かしたい瀬戸市の付加価値・ポテンシャル

### 橋本委員

- ・運動教室や地域の健康プロジェクトでの反響を見ると、「健康」への関心度は高いと感じる。

### 伊藤委員

- ・「人口・産業を増やす」「来た人を離脱させない」という視点が重要であり、やきもの産業を核としたクリエイティブ人材の存在を強みとできるのではないか。
- ・瀬戸市の独自性を活かして焼き物産業の付加価値を向上させたり、事業承継を行ったりできれば、大きな強みとなる。産業構造の変革や付加価値の向上については、瀬戸市が一体となって取り組めると良い。

### 石川委員

- ・やきもの業界でも後継者不足は深刻な問題である。事業継承や担い手確保のためには、稼げるようにすることが必要であるが、単価をいかに上げるかというところが課題になる。
- ・様々な規模の事業者がいるが、作家業だけで生計を立てられる人は少ない。分業・外注により地域でお金が循環する構造ができれば、瀬戸焼の価値向上が見込めるのではないか。

### 林委員

- ・野々垣委員が以前長野県佐久市の事例を紹介していたが、その話を聞いたとき改めて瀬戸市は「瀬戸焼」だと感じた。市民には価値が分かりづらいが、「せともの」を前面に押し出していけると良いのでは。瀬戸市が輩出する人的資源も大切であると感じる。

### 野々垣委員

- ・佐久市の事例は、酒造りを付加価値として、その上でのストーリー込みの体験を付加しているのが大きな特徴。これを参考にするなら、瀬戸市ならではのストーリーやデザインを考えていけると良い。

### 吉澤委員

- ・やきもの以外の資源も含め、それぞれが当事者として関わることのできる物語性を付加できると良い。

### 石川委員

- ・瀬戸市のあまり知られていない魅力・深い魅力を以下に発信していくか、大事にできると良い。
- ・子どもに対しては、職場体験などでやきもの世に届ける一連の流れを伝える機会はある。

### 石川会長（まとめ）

- ・本日議論した論点は全て繋がっており、瀬戸市には個々のテーマで深く語れる魅力がある。
- ・瀬戸市は古くからダイバーシティのまちであり、外国人との関わりから生まれた好事例が多く、若い世代を中心に関係人口・共創人口の繋がりもでき、「何かしよう」という機運の高まりも感じられる。
- ・一方で、こうした機運が市民にあまり知られていない側面や、若い世代の頑張りに依存している現状があり、行政の下支えがなければ継続が困難であるという危機感もある。
- ・本日の意見や市民の声を咀嚼し、総合して良い計画を検討いただければと思う。